

2010年度(平成22年度)

事業報告書



財団法人キープ協会

目次

2010年度(平成22年度)事業報告書

2010 REVIEW	2
I. 研修交流事業本部	7
・宿泊部	
・食育部	
・企画営業部	
・開発営業部～営業強化PJT	
・自然学校	
・ポール・ラッシュ記念センター	
II. キープ農場事業本部	14
・農業生産部門	
・製販事業部門	
III. 環境教育事業本部	18
・やまねミュージアム	
・フォレスターズスクール	
・八ヶ岳自然ふれあいセンター	
IV. 財団本部	23
・総務人事、財務経理、施設管理	
・国際交流事業部	
V. 清里聖ヨハネ保育園	26
VI. 清里聖アンデレ教会	27

2010 KEEP REVIEW

3月11日に発生した東日本大震災により亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様とそのご家族の方々に心よりお見舞い申し上げます。また救援活動に従事されている皆様に激励と感謝の意を表します。一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

KEEP国際研修交流センター・清泉寮新館が新規開業して2年目にあたる2010年のキープ協会を振り返ってみますと、以下の通り、まさにチャレンジングの1年でありました。

1. 新執行体制

任期満了に伴う役員改選(6月8日、理事会・評議員会)。

金井務会長のもと、茅野徹郎新理事長、林野尚樹新常務理事、黒田哲朗理事(理事長補佐)、市村堅吉理事(農場長)による新しい現場執行体制スタート。

2. 新しいプロジェクト

理事長直轄による新しいプロジェクトの活動を直ちに開始。

「営業強化プロジェクト」…集客活動の強化

「経営諮問委員会」…毎月の経営分析と対策協議

「ランドスケープ・プロジェクト」…キープ敷地内のマスタープラン作り

「キープ・ウインター・プロジェクト」…冬期間の集客活動(巨大氷のリース設置や企画イベント実施など)

3. 公益認定申請準備

2010年12月・理事会・評議員会(新定款案など協議)

2011年3月・理事会・評議員会(新定款案など承認)

2011年度中に公益申請手続きを行うべく準備(担当事務局)

4. ACK(キープ米国後援会)とキープ協会の合同会議

10月に清泉寮新館で開催(原則10年毎)。両理事会の合同会議による各々の現状分析や課題の共有。

VISITOR'S COMMITTEE(集客組織化)とINTERNATIONAL PARTNERSHIP COMMITTEE(フィリピン・ツルガオプロジェクトなどの国際協力推進)のワーキンググループが活動を開始

5. 那須平成の森(環境省より受託)

2010年度「那須平成の森」運営管理準備業務を実施。

2011年度から、開園以後の管理運営業務を環境省より正式受託

6. 自然災害と被災者支援活動

大規模落雷(7月)…各施設の停電復旧や温泉ポンプ部品交換など予想外の費用。

東日本大震災(3月11日)…観光客激減(風評被害)により営業大打撃。

震災被災者支援活動…現地での救援活動ボランティアのほか、キープ自然学校において福島県の避難所からの被災者家族の受け入れを実施。

ACKよりキープ協会が行う被災者救援活動に対する力強い全面支援の声。

7. 財務状況と今後について

減価償却(約1億6000万円)を含んだ対予算収支はおよそ△7,500万円。

早急に2011年度以降の中長期計画の見直しをする中で経営の改善に努める必要がある。

創設者ポール・ラッシュの理念に基づく、持続可能な公益財団としての活動を継続。

「DO YOUR BEST, AND IT MUST BE FIRST CLASS.」

財団法人キープ協会
理事長 茅野 徹郎

2010年度 KEEP 事業構成

	実験	社会化	基幹業務	現在の事業部区分
研修交流 事業本部		指導者養成、青少年育成、健康増進、敬老福祉、地域振興を目的とした主催・共催事業 展示学習施設等による普及啓発	国際研修交流センター(清泉寮) 自然学校、キャンプ場の運営 (宿泊部・食育部) ポール・ラッシュ記念センターの運営 企画営業部 開発営業部 管理部	清泉寮宿泊・食育・管理、 自然学校・キャンプ場、 企画推進・地域関係 ポール・ラッシュ記念センター
キープ農場 事業本部	実験農場	農業分野での 体験学習、 地域振興、普及啓発	生産・育成 搾乳・草地機械 酪農体験	高冷地実験農場
		製販事業	製造・販売・通販 飲食販売施設の 運営 購買課	製販事業部、 企画部の商品開発・企画推進 ギフトショップ・ジャージーハット・キープファームショップ 清泉寮パン工房
環境教育 事業本部	環境教育・ 環境保全の 研究	研究成果の展示・公表 社会・行政等への提案	やまねミュージアム (環境研究所) フォレスターズスクール 八ヶ岳自然ふれあいセンター	環境教育事業部の試験研究部門、 やまねミュージアム 八ヶ岳自然ふれあいセンター (指定管理事業) 環境教育事業部の指導普及部門
財団本部			法人事務局 総務・人事 財務・経理 渉外・広報 施設管理	総務部 経理部 施設部
	国際貢献 プロジェクト	国際交流事業	ツルガオP. その他助成事業	国際交流事業部
清里 聖ヨハネ 保育園		幼児教育	保育・給食 一時預かり	清里聖ヨハネ保育園

事業の概観(INDEX)

I. 研修交流事業本部

1. 清泉寮

- (1) 宿泊部
- (2) 食育部
- (3) 企画営業部
- (3) 開発営業部～営業強化 PJT
- (4) 管理部

2. 自然学校

3. ポール・ラッシュ記念センター

II キープ農場事業本部

1. 農業生産部門

1. 酪農業務
2. 山梨県酪農経営に協力
3. 搾乳体験、体験実習、ヘイライド等の実施
4. 肥育牛の利用
5. 老廃牛の淘汰、安心安全面の改善、
有機JAS認定牛乳の生産販売
6. 地域畜産ふれあい体験交流推進事業を実施、
酪農飼料基盤拡大推進事業実施より補助金
7. ヤンマー農機新入職員研修会、
ふれあい牧場シンポジウム、
ヤンマー農機関東研修会などの開催

2. 製販事業部門

1. 製造部
2. 販売部
3. 通販部
4. 購買課
5. 管理

III 環境教育・環境保全事業

1. やまねミュージアム＝環境研究所

- (1) ヤマネの総合的な研究の推進
- (2) ヤマネ保護と環境保全研究の提案
- (3) 研究成果を活かした環境教育の普及

(4) 収蔵の充実

(5) 入館者に満足感を与える工夫と新グッズ

2. 環境教育指導者養成・普及事業

- (1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割
- (2) 基本的な考え
- (3) 2010 年度重点目標
- (4) 主催事業
- (5) 受託事業
- (6) KEEP 各セクションとのコラボレーション
- (7) 指導教育

3. 八ヶ岳環境と文化のむら

山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター

- (1) 指定管理の再委託について
- (2) センター運営に関する中期的な基本方針
- (3) 5 年間の中期的具体目標
- (4) 2010 年度の事業報告
- (5) 開館状況と入館者数の実績

4. 環境研究所＝環境教育研究

- (1) やまねミュージアム
- (2) 環境教育研究

5. 国際会議開催

- (1) 田んぼ国際環境教育会議をCOP10 で発表
- (2) アニマルパスウェイをCOP10 で発表
- (3) キープの環境教育の成果をCOP10 で発表

6. 地域との環境教育事業＝

八ヶ岳田んぼの学校、清里子ども自然クラブ

- (1) 八ヶ岳田んぼの学校
- (2) 清里子ども自然クラブ
- (3) 学校教育
- (4) その他

IV. 財団本部

1. 総務部
2. 経理部
3. 施設部

4. KEEP総合計画
5. 国際交流事業部
 - (1)ケンタッキー州マディソン郡姉妹地域交流
 - (2)上記中学生と教師のホームステイ事業
 - (3)三井物産環境基金助成事業
 - (4)地球環境基金助成事業
 - (5)フィリピン聖公会北フィリピン教区(EDNP)
 - (6)国土緑化推進機構(緑の募金)助成事業
6. その他のプロジェクト

V. 清里聖ヨハネ保育園

- 1 異年齢児保育の継続
- 2 自然学校・森のようちえんプロジェクトとの連携
- 3 環境教育・国際理解プログラム
- 4 安全・安心な給食の提供
- 5 保育士の資質の向上
- 6 施設改善の見直し計画

VI. 清里聖アンデレ教会

1. 宣教についての学びと取り組み
2. 山梨県下三教会合同プログラム
3. 保育園職員・保護者聖書勉強会
4. キリスト教関係学校・団体等の受け入れ
5. キープチャプレンとして

I. 研修交流事業本部

研修交流事業部は、宿泊施設の運営をメインに青少年育成、指導者養成、健康増進、幼老福祉、地域振興を目的とした主催・共催事業を実施し、加えて普及啓発を目的とした展示学習施設・ポール・ラッシュ記念センターを運営しました。

清泉寮新館オープン直後は成績が振るわず、また、大きな借入金を抱えたため、2009年度の反省をもとにしっかりとした準備を心がけました。ただ、年度途中での組織変更や営業方針の変更などにより、準備不足、場当たりの対応、施設の不具合、オペレーションの問題など多岐にわたる問題を抱えながらの運営となってしまいましたが、現場は一丸となって業務に取り組みました。

また、環境や農場の協力のもと体験プログラムを前面に出し、またロビーなどに自然体験コーナー、野鳥観察スポット、星の情報コーナー等を設け、アロマショップや手作りケーキの販売など独自色を出す努力をしました。

1. 清泉寮

とにかく認知度を上げること第一の目標とし、加えて営業を充実させ、来館者の増加、売上の増進を目指しました。

認知度を上げるために、まず清泉寮のHPを4月より開設。加えてHPより予約が取れるようにし、サードパーティーの予約サイトへも力を入れたため、ネット予約が大幅に増え、個人客が増加、加えて電話予約が減少したため、事務作業の軽減につながりました。また、英語サイトも年末には開設し、外国人客の獲得にもつながっています。

新たに清泉寮のパンフレットを作成するとともに、セールスキットも作成し、認知度アップに努めました。この予約をコントロールするため、予約課を新設し、予約と価格決定権を与えて、常にマックスの収益を上げられるよう、価格と予約のコントロールを行い、大幅な収益増につなげました。また、客室関係を主に扱う客室課も新設し、入室前のチェックなど行うことでコンプレイン(苦情)の大幅な減少につながり、評価の向上、リピーターの増加につながりました。

団体については、営業部を新設し、首都圏はもとより関西、東海、北陸など可能性のある地域に定期的に営業をかけるとともにJTBとの契約を結ぶことにより、集客力のアップを目指しました。

レストランに関しては、稼働施設を絞ることで赤字を解消し収益が出る体制に持って行くことができました。具体的には新館レストランは、宿泊客中心で朝夕食の提供を行い、加えて団体の昼食とGW、夏のビュッフェランチの提供を行いました。本館レストランは、ランチを中心として、ピーク時の夕食提供としました。冬期集客の弱い時期は、休業にして支出を抑えました。前年の反省およびスタッフを削減したため、背伸びをしない、なるべく手間がかからないオペレーションとし、メニューを限ったりしましたが、素材を活かした清泉寮の特色を出した商品を提供したため、評判はよく、宿泊客獲得の材料となりました。

コストに関しては、予算は達成できなかったものの、人件費や光熱費など大きなところで大幅に削減できました。

冬期集客の弱い時期には、早めに休館日を設けその前後にお客を振り分け、また本館の販売をやめ新館に集中させることにより、収入を上げつつコストの削減に努めました。また、支出項目をチェックし、無駄の排除に努めました。

上記の実行を行った結果、前年に比べ評価の向上へつながりましたが、新館施設の不具合や未完成、温泉設備の不調、旧館施設の故障など、直ちにコントロールできないコストが増大しています。

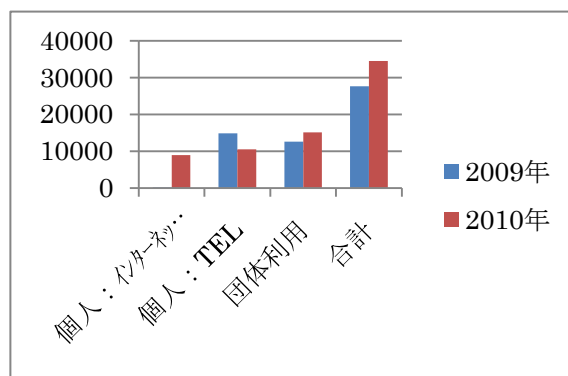
(1) 宿泊部

① 予約課を中心として、昨年の利用実績に基づき、料金設定を行いました。宿泊予約はインターネット予約サイトを使い、臨機応変に価格設定を行いました。また、じゃらん・楽天などの予約サイトの性格に合わせ、限定プラン棟を機動的に設定し、顧客・価格のニーズに合わせたプランを提供する仕組みを構築出来たことで、利用者数のアップに寄与したと推察します。

また、清泉寮のホームページを改修し、季節の風景等の画像を常に更新するとともに、宿泊・食事・イベントのページも更新。スタッフによるブログでは、ご利用になる宿泊ゲストより情報の提供として好評をいただきました。また、英語でのページも新設し、外国からの宿泊予約に繋げることが出来ました。

2009年～2010年 宿泊利用者数推移

	2009年	2010年	2009VS2010
個人：インターネット経由	186	8,937	4,805%
個人：TEL	14,873	10,472	70%
団体利用	12,585	15,077	120%
合計	27,644	34,486	125%



	2009年	2010年	2009VS2010
個人利用(ネット+TEL)	15,059	19,409	129%

② 開発営業部等との連携により宿泊ゲストのニーズに合わせた研修プランや会場等を提供することが出来ました。今後は他施設を参考にして、更に施設・案内を向上してまいります。

③ オフシーズンの稼働については、年末年始・連休等による多客期と団体での本館利用以外は、新館と一部のコテージのみで対応しました。施設内の電気・燃料等の光熱費を抑えることが出来ました。

④ 清掃委託業者による清掃後のお部屋の入室チェックを、客室課を中心に行い、宿泊ゲストに快適な安定した客室を提供することに寄与しました。顧客獲得するためには、必要不可欠であり、

清掃委託業者にも良い効果を与えております。引き続き実施をまいります。

- ⑤7月から9月までの間、温泉汲み上げポンプが故障し、温泉供給が出来ませんでした。その後は、汲み上げは良いものの、排水のつまり等があり、清掃から営業までのメンテナンスに時間を要しており、確実に安定をした供給が出来ず、地元への一般開放には至っておりません。

(2)食育部

- ①今年度も2つのレストランを営業し地産地消については両レストランとも可能な限り実施できました。
- ②朝食については新館レストランの営業を主体に行いました。年度の途中でテーブルを新規追加し、席数を増やしたことで多少の混雑は軽減できましたが、宿泊者数に対する席数の少なさはまだ改善の余地があります。
- ③本館レストランのランチ営業は厨房の設備を改良し、昨年よりも大幅に人件費の削減ができたため、当初11月から3月を営業しない予定でしたが、休日を多く設定できる範囲で営業しました。新館レストランは繁忙期のみランチ営業しました。
 - 1)立ち寄り団体は少しずつではありますが新規の団体が増えてきております。近くにあるサンメドウズスキー場とは異なる売り方をし新規顧客開拓に取り組むことができました。
 - 2)2つのレストランを効率よく運営し団体の数により場所を振り分け、最低限のスタッフで稼働させることができました。
- ④新館レストランの営業は宿泊と連動して営業し、ビュッフェを基本とした1泊2食付きプランをベースに運営しました。
- ⑤現在の人員では宴会、会議に力を入れることは難しいため、食育部だけではなく清泉寮全体としての運営をし、地元の人をはじめ県内外のお客様にも会議、宴会場として利用していただきました。
 - 1)前年では取れなかった会場・備品使用料も新規客についてはいただくようにしました。
 - 2)少しずつではありますが地元の人々の利用も増えてきております。
 - 3)営業を通じ団体への会議の間のリフレッシュメント(軽飲食)を売りこむことができました。
 - 4)婚礼は問い合わせがあった場合には必ず獲得できるように努力し、魅力あるメニュー作りや清泉寮でしかできないスタイルを提案して満足していただけたと思います。
- ⑥地元の農家とのつながりは、前年度よりも新しい農家・生産者とのつながりを6件増やすことができました。
- ⑦料飲の組織として料理長兼料飲部長、サービスマネージャー、各レストランに副料理長を置き運営しました。今年度は人員の都合で予約担当を置くことができませんでしたが、今後の課題として次年度の遂行を目指します。

(3)企画営業部

前年度の体験交流部から引き続いて、清泉寮宿泊者対象体験プログラム提供に加え、ワークショップと植物療法関係団体を中心に営業活動を担当しました。また、ブライダル予約受付から当日コーディネートを担当しました。

- ① 体験プログラム「西の魔女が死んだ」映画ロケセット公開

ゴールデンウィーク期間限定公開(5月1日～5日)	310名
夏休み期間限定公開(8月1日～31日)	3,109名
ワンコインハーブ講座(グリーンフラスコ株式会社)	68名
秋の植物療法フェア(10月9日～11日)	119名
- ② ワークショップ関連団体
新規 17 団体延 894 名獲得。2011 年度継続・新規利用予約も好調。
- ③ 植物療法関係団体
日本ホリスティック医学協会他主催「植物療法ネットワーク(9月4日～5日)」140名
※前年度日帰り事業(環境教育事業部窓口)
2011 年度主催をキープに移管。上記事業に関わる講師陣による宿泊プログラムを試験的に計画。2 月版植物療法ネットワーク(2 月 19 日～20 日)18 名。3 月版については、14 名参加申込(震災のため中止)
- ④ 事業部内研修
事業部内若手リーダー候補者 4 名(川神・岡田・齋藤・潮田)対象研修
CTI ジャパンの協力により、6 月～毎月システムコーチングセッションを実施
2 月 16 日事業部全職員対象研修を企画運営
- ⑤ ブライダル
今年度 10 件目標に対し 7 件実施。

(4)開発営業部～営業強化 PJT

- ① 2009 年 12 月、冬季対策の一環で「開発営業チーム」編成
目標は「清泉寮の 60%稼働」。新規団体獲得数 11,000 名を既予約 9,180 名に上乘せ、約 20,000 名泊に。達成率は、清泉寮 83.3%、自然学校加えて 83.8%。
 - ② 2010 年度冬季間の活動を経て、4 月、本部に開発営業部配置。
 - ③ 2010 年 7 月、茅野新理事長のもと営業強化 PJT として仕切り直し。
- (1) 訪問営業活動…2010 年 4 月から 2011 年 3 月までで計 17 回、延べ 54 日間。
延べ訪問件数複数回箇所含めて約 200 件。内 110 件がエージェント訪問、団体(企業・学校)への直接訪問が 100 件。
 - (2) JTB との契約による効果。
受入側としての条件整備の見直しと改善(保険や衛生管理面)ができた。
10 月 1 日から全国の JTB 営業拠点に情報が流れ早速反応が出始めている。
首都圏、中京圏、関西圏、北関東地区に、約 30 社 80 支拠店の営業が実施できた。
 - (3) 大学合宿
毎日コムネット(株)による KEEP 視察後、HP への広告掲載⇒来期の送客を確約。

(4) インバウンド

観光庁、日本政府観光局、日本観光協会、やまなし観光推進機構、国際旅行事業部

11/18 シンガポール中学生 46 名自然学校⇒来期リピート確約

12/4 シンガポール MICE オーガナイザー5 名清泉寮⇒来期社員旅行確約

12/9 シンガポール中学校 73 名自然学校⇒来期リピート決定

(5) 今後の課題

- 1 清泉寮と自然学校のさらなる「稼働 UP」
- 2 「売上 UP」に寄与する宿泊団体の獲得に特化した営業活動
- 2 訪問営業の強化
- 3 営業活動を分類・整理して、リーダー・目標・業務毎にチーム再編成
 - (1)訪問提案営業・インバウンドチーム
 - (2)WS 発展・植物療法チーム
- 4 体験プログラムの新規開発、既存プログラムのブラッシュアップ
- 5 KEEP のビジョン、戦略・戦術の再確認作業

(5) 管理部

① 労務管理

休日カレンダーに定められた休日数に基づき各部にてシフト組みを行い、不必要な休日出勤や残業が発生しないように努めました。前年度と比較して支出を抑えることが出来ました。

② 収支管理

収入についての各部からのフォーキャスト(予測)を参考にしながら、支出についてリアルタイムに把握出来るように、各部で発生する納品伝票を日々回収して管理元帳を作成しました。

③ 施設・設備管理

防火管理者による消防訓練の実施や、防火設備の点検ファイルを一括管理しました。また、浄化槽、ボイラー、水質等の管理ファイルも把握するようにしました。

④ ISO14001 環境管理マネジメントに関する業務を担当しました。

2. 自然学校

自然学校に関しては、ここ数年組織や体制の変更が頻繁にあり、本年度も部内の体制や方針が確立しないまま過ぎて行ってしまいました。スタッフの兼務が多く(保育園プログラムや地元観光振興会の地域連携業務など)、ぎりぎりの人員にてオペレーションしているため、新たな営業やフォローが十分にできず、十分な新規顧客の獲得ができませんでした。

常に高い評価をいただいている「森のようちえん」プログラムは、前半ペースが遅かったですが、後半は順調に回を重ね、常に定員を超える参加者とウェイトイング状況で好評でありました。

また、震災後いち早く、被災者支援プラン(あんしんの森プロジェクト、元気鍋)を企画実施し、その後のキープの被災者支援体制へ引き継ぎました。

今後については、再度自然学校のポジションを明確にし、収支の合う体制に持って行く必要があります。「森のようちえん」などの企画事業は重要な柱ですが、さらにそれを利用した新規団体の獲得や、新たなマーケットの開拓、単価アップなど通常の宿泊施設の行動を追求したいと思います。

自然学校としては、清泉寮全体の集客成果を上げることを最優先にし、加えて老朽化のキャンプ場運営を夏季のみとし、2ヶ所あるキャンプ場を1ヶ所運営としました。

収入の面では、自然学校だけを見るとマイナス点は多いですが、研修交流事業部全体での収入に貢献しました。特に「森のようちえん全国交流フォーラムイン山梨」(清泉寮会場)では378名の参加者数があり、全体的に保育園、幼稚園の研修利用での経済効果がありました。その半面、自然学校の目指すところの「生活」「食育」「教育」の「教育」部門が環境教育、農場などの事業部に移行されましたが、計画にあった自然体験は環境教育事業部に統合する形は消滅し宿泊研修施設としての三位一体の再構築(しくみ作り)が次年度以降として課題となっています。

コストに関しては、冬季などには清掃を職員が行い、故障や要修繕箇所についても最低限必要なもののみ実施し、なんとか凌ぎましたが、計画的補修が必要な状態です。

職員配置においては、計画11名に対して実数8名(3名欠員)で業務にあたり、不足人員は清泉寮宿泊部・食育部と連携しました。

自然学校・キャンプ場での食事提供には、出来るだけお客様の要望(アレルギー対応)を受け容れ、安心・安全な食事を心がけました。食材だけでなく食器類にも地元ならではの手作り感を出しました。また、食育プログラムとして、たんぼの学校の米づくりだけでなく、梅(6月)、柿(10月)、味噌(冬季)など1年を通して山梨の農業とかかわる企画を提供し、好評を得ました。

3. ポール・ラッシュ記念センター

ポール・ラッシュ記念センターは、当初計画では、ボランティアスタッフを活用しての運営を行い、コスト削減のため冬期は休館する予定でしたが、センターの使命を鑑み、また利用者の要望にお応えすべく、冬期も含めて通年開館しました。休館日もリクエストベースにて開館しつつ、照明、暖房などコストダウンにも努めました。

ポール・ラッシュ記念センターの運営については、創設者ポール・ラッシュおよびキープ協会の歴史を顕彰する博物館相当施設であるとともに、併設している「日本アメリカンフットボールの殿堂」の公開も主要な業務としており、展示物の更新、企画、宣伝等集客を促すことを考えてゆくと同時に、今後のあり方等についても、ポール・ラッシュの会や日本アメリカンフットボール連盟などとの協議を継続して、安定した運営に努力してまいりたいと思います。

1) 開館状況 4月～3月 301日開館

水曜定休、GW・夏休みなどのシーズン中は無休、11月～3月の冬期は清泉寮の休館日に合わせて水・木曜中心に休館。(断熱費等の節約に努めながら、冬期も開館しました。)

2) 開館時間 午前10時～午後5時 ただし、時間外のご要望にも対応。

3) 入館料 大人500円、子供200円、団体割引20名以上

4) 運営体制 館長は研修交流事業部の管理部長を兼務したため。臨時職員を1名常駐で置きました。
また、繁忙期はボランティア数名のお手伝いを頂きました。

	2010年度	2009年度	増減
年間開館日数	301日	228日	73日
入館者数	10,672人	8,297人	2,375人
一日平均入館者数	35.4人	36.3人	△0.9人

(※2009年度は、12月～3月まで冬期休館)

Ⅱ. キープ農場事業本部

1. 農業生産部門

- (1) 引き続き、管理草地 70haで常時 130 頭のジャージー乳牛の飼育管理を主とした酪農業務に専念しました。そのうち 60 頭の搾乳を行い、総乳量 180,654kgの牛乳を生産いたしました。その殆どはタカハシ乳業(群馬県、前橋市)に出荷、低温殺菌による製品化を経て、keepジャージー牛乳として、主に首都圏で販売、また消費者団体にも流通されました。高品質、安全、安心のジャージー牛乳として高く評価され販路も安定してきました。
- ① 主な販売先:帝国ホテル、伊勢丹百貨店、成城石井、明治屋、日本アクセス
② 消費者団体:所沢生活村、大宮みかんの会、大地を守る会
- (2) 山梨県の酪農経営の安定のため、山梨県畜産課、酪農試験場、西部家畜保健所、山梨県畜産会、家畜改良協会、乳量検定組合等に乳牛飼育者の立場で協力いたしました。
- (3) 教育農場としての役割を果たすべく日本大学生物資源科学部 40 名、の体験実習を受け入れました。また酪農体験、ゴールデンウィーク、夏休み等の来場者が多い時期に、搾乳体験、ヘイライドなどを行いお客様にも酪農を理解していただけるように努めました。
- (4) 製販事業部の協力を得て、ジャージーの肥育牛(雄仔牛)の利用に努めました。
- (5) 家畜共済、畜産会の指導により、繁殖の向上を図るため、老廃牛を淘汰、飼料や牧草の安心安全、衛生面を改善し、有機JAS認定牛乳の生産販売に努めました。
- (6) 社団法人中央畜産会より地域畜産ふれあい体験交流事業の実施、社団法人中央酪農会議より酪農飼料基盤拡大事業の実施により、それぞれ助成金をいただきました。
- (7) 5月25、26、27、28日の各日には、ヤンマー農機新入職員研修会(15名)、10月20、21日に中央畜産会主催のふれあい牧場シンポジウム(70名)、11月3、4、5日に、ヤンマー農機関東主催の研修会(75名)を各々開催しました。
- (8) 飼育頭数および乳量

飼育頭数	2009年度	2010年度	増減
成牛	85	87	2
育成牛	45	23	△22
哺乳牛	15(雄仔牛も含む)	20	5
合計	145	130	△15
内 搾乳頭数	62	65	3
総生産乳量	195,000kg	180,654kg	△14,346kg

2. 製販事業部門

“いちばん美しい農場”プロジェクト(略称 MBF プロジェクト)を基本とした「生産・収穫－加工・製造－販売・消費」一貫体制の確立を目指し、それに応じた事業を展開しました。また、消費低迷による減収にきめ細かく対応し、収益の確保に努めました。

(1) 製造部

- ジャージー牛乳から 生クリーム・バター・ヨーグルトを自家製造
- 無添加ソーセージを自家製造
- 天然酵母によるこだわりのパンを自家製造
- 地元産および県内産の果実を使ったジャムを自家製造

(2) 販売部

- 清泉寮ギフトショップ・清泉寮ジャージーハット・清泉寮パン工房およびキープファームショップの4店舗を運営
- ジャージー牛乳の消費促進および高付加価値化を図った商品展開およびメニュー展開
- 満足度を高める 接客・サービスの向上
- 各店舗コンセプトの明確化による 複数店舗利用促進
- 飲食部門に於いては「人と地球の健康」をキーワードとした 食の安全を強く意識したメニューを展開
- キープ農場産の牛肉および豚肉を多用したメニューを展開
- 自家製乳製品を多用したメニューを展開
- 物産展および催事等への出張販売(別表参照)

(3) 通販部

- WEBページの改良および更新
- ギフト需要に対応した 自社通販および百貨店等の産直販売

(4) 購買課

- 購買の一元化による仕入管理
- POSシステムによる徹底した在庫管理
- ACK(キープ米国後援会)と連携した 海外製品の直輸入
- 全店舗連携した発注管理

(5) 管理

- 滞在時間延長および複数店舗利用を促進
- 各種インフォメーションの充実

- 各種媒体およびメディアを活用した広報宣伝
- 製販事業部WEBのリニューアル
- 景観に配慮した各店舗周辺の環境整備
- ガーデン管理および環境美化による 癒しの空間を提供
- 可能な限り外注に頼らず 自らの作業で経費を削減
- 各店舗間の横断的なシフトによる効率化で人件費を削減
- 冬期間の効率的運営による収益構造の改善
- 収入に応じた 徹底した支出の管理
- 冬期集客を図るキープ・ウインター・プロジェクトへの積極参加

売上動向 (金額：千円)

	2009年度	2010年度	前年比
売店	377,614	321,008	85.0%
ソフト	192,337	175,254	91.1%
飲食	55,868	56,411	101.0%
その他	946	541	57.2%
合計	626,764	553,214	88.3%

製販事業部 2010 出張販売実績

場所	事業名	期日
青森 中三百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	4/2～4/11
金沢 名鉄丸越百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	5/19～5/26
日本橋 富士の国やまなし館	リニューアルイベント	6/1～6/6
有楽町 阪急百貨店	るるぶ 人気観光地 夏のスイーツセレクション	7/12～7/20
日本橋 富士の国やまなし館	夏の清里高原フェア	7/24～7/28
新宿 高島屋	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	9/7～9/14
名古屋 丸栄百貨店	山梨の物産と観光展	9/9～9/15
横浜 高島屋	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	9/15～9/21
名古屋 JR名古屋タカシマヤ	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	9/15～9/21
川崎 日本食肉流通センター	ちくさんフードフェア	10/9～10/10
船橋 東武百貨店	にっぽんの味	10/21～10/27

沼津	西武百貨店	秋のうまいもの祭	10/27～11/3
山梨	ラザウォーク	山梨ちくさんフードフェア	10/30～10/31
新潟	伊勢丹百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	11/3～11/9
羽村	富士見公園	羽村市産業祭	11/6～11/7
甲府	岡島百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	11/13～11/20
静岡	伊勢丹百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	12/17～12/25
豊橋	丸栄百貨店	日本縦断味めぐり	1/6～1/11
盛岡	川徳百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	2/2～2/8
浜松	遠鉄百貨店	ズームイン SUPER 全国うまいもの博	3/16～3/22

出張販売件数	ソフトクリーム売上	物販売上	合 計
20 件	23,662 千円	5,956 千円	29,618 千円

Ⅲ 環境教育事業本部

2010年は生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が名古屋で開催され、生物多様性の保全とそのため不可欠な環境教育が注目された年でした。その社会の動きの中、環境教育事業部は、環境教育と環境保全の「社会化」をキーワードとして、後述の様々な活動を展開しました。

1. やまねミュージアム＝環境研究所

(1) ヤマネの総合的な研究の推進

- ①生態学的研究 ②食べ物の研究 ③生理学的研究 ④行動学的研究 ⑤遺伝学的研究
- ⑥ヤマネを通じた自然環境変化のモニタリング ⑦海外のヤマネとの比較研究 ⑧アニマルパスウェイに関する研究

これらの研究の成果は、学術論文として海外の学会誌に投稿するべく現在執筆中です。また、2011年度には国内外の学会にて発表します。

(2) ヤマネ保護と環境保全研究の提案

- ①ヤマネの生物学発展についてヨーロッパ(イギリス、ハンガリー)での国際共同研究
- ②アニマルパスウェイ(ヤマネブリッジ)の共同研究
- ③COP10での発表とエクスカージョン
- ④森林開発に対する森林保全の提案
- ⑤林野行政への提案
- ⑥JAXA(宇宙開発機構)・NASA(アメリカ航空宇宙局)との協働研究の試み
- ⑦学会発表や論文を通して世界に情報発信

(3) 研究成果を活かした環境教育の普及

やまねの森ガイド(八ヶ岳自然ふれあいセンターと連携)を年13回、やまね学校(キープ・フォレスト・スクールとの連携)年2回実施しました。また、日々の研究成果はプログラムだけでなく館内展示にも反映させています。夏休みにはそれぞれの研究得意分野を活かした「研究員トーク」を行いました。

(4) 収蔵の充実

将来的に建設が検討されている新やまねミュージアムでの活用を視野に入れて、展示に使える教材を中心に収蔵を行いました。

(5) 入館者に満足感を提供する工夫と新グッズの製作

毎年色を更新するオリジナルピンバッジの配布、随時更新する館内展示、新商品の販売(製販事業部との連携)を通して、入館者に満足いただける博物館を目指しました。

(6) 開館時間および休館日

- ・開館時間:10:00～16:00(夏季休業期間中は09:00～17:00)
- ・休館日:毎週月・火曜日(祝祭日の場合は開館。代休なし)
- ・特別開館:ゴールデンウィーク、夏季休業期間中、年末年始

本年度の入館者数は、有料入館者が16,469名、無料入館者が1,846名、合わせて18,315名でした。(表1参照)

表1:2010・2009年度やまねミュージアム開館日数・入館者数等の実績

	2010年度	2009年度	増減／昨年比
年間開館日数	290日	295日	5日減／98.3%
入館者数	18,315名	26,211名	7,896名減／69.8%
1日平均入館者数	63名	88名	25名減／71.5%
利用団体数	68団体	66団体	2団体増／103.0%
団体利用者数	2,921名	3,081名	160名減／94.8%

2. 環境教育指導者養成・普及事業

(1) キープ・フォレスターズ・スクールの役割

- ①環境教育プログラムの提供
- ②日本の自然を活かしたプログラムの開発
- ③環境教育ネットワークの支援
- ④「インタープリター」の役割の普及

(2) 基本的な考え

- ①Challenge(チャレンジ) ②Communication(コミュニケーション) ③Character(個性)

(3) 2010年度の重点目標

- ①キープ協会来訪者へのプログラム充実
- ②健康をテーマにしたプログラムへの取り組み
- ③社会の動きを踏まえた事業展開

(4) 主催事業

「実験」「協働」「プログラム開発」という位置づけの下、以下のプログラムを実施しました。(表2参照)

表2:2010・2009年度環境教育プログラムの実績

	2010年度		2009年度	
	回数	参加者数	回数	参加者数
宿泊型環境教育プログラム	13回	319名	12回	285名
日帰り型環境教育プログラム (宿泊者対象プログラムは除く)	10回	96名	6回	45名
日帰り型地域対象環境教育プログラム	9回	106名	12回	228名

(5) 受託事業

学校・企業・省庁・自治体などから受託事業を受入れ、また、教育機関への講師派遣、ネットワーク団体への参画などの役割を務めました。(表3参照)

表3:2010年度受託環境教育プログラムの実績

区分	対象	主な利用団体
清里でのプログラム	学校関係	立教池袋中学校、聖心女子学院初等科、荒川区立小中学校、大田区立小中学校、府中市立小中学校、小平市立小中学校、横浜女学院、青山学院短期大学、帝京短期大学、立教大学、明星大学、明治大学、ハリウッド美容専門学校 など
	行政関係	青年海外協力機構、青年海外協力協会、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合 など
	一般	日本環境教育フォーラム、グリーンフラスコ、トラボ、JX日鉱日石エネルギー、NEC、NTTグループ、Value Frontier、コーエイ総合研究所、国土緑化推進機構、みずがき山ふるさと振興財団 など
出張プログラム	行政関係	栃木県、環境省、林野庁、富士吉田市外二ヶ村恩賜県有財産保護組合、青少年教育振興機構 など
	一般	中部電力、サントリーグループ、電源開発、NTTグループ、国土緑化推進機構 など

(6) キープ協会各セクションとのコラボレーション

各セクションと協働し、キープ協会の宿泊者・利用者へのプログラムを実施しました。また、ポール・ラッシュ祭では複数のセクションとの協働の上、子どもエコフェスティバルを運営しました。

(7) 指導教育

職員や新職員、実習生のスキルアップのために各種研修の機会を設けました。また、事業部として3人の実習生を迎え、国内外から5名の研修生を受入れました。さらに、大学のインターンや各種ボランティアの受入を行いました。

3. ハヶ岳環境と文化のむら

山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンター(指定管理事業)

(1) 指定管理の再委託について

山梨県立ハヶ岳自然ふれあいセンターは、キープ協会が第2期の指定管理者として再指定され、2009年度から2013年までの5ヶ年その管理を任されています。5年間の基本方針、及び中期的具体目標に基づいて施設運営しています。

(2) 2010年度の事業計画

「自然と健康」を主テーマに設定し、以下の事業を行いました。また、COP10開催に合わせ、「生物多様性」をキーワードにした活動も行いました。

① 施設展示(随時更新)・プログラム(1~2プログラム程度)の開発

新規開発およびリニューアルした施設展示:

レンジャーの本棚、ボランティア鈴木さんの写真アルバム、

モミの香りは森のビタミン剤、目に見えないものを感じたことがありますか? など

新規開発した主催事業:

森林ウォーク、のんびり森あそびガイド＝年度テーマ「自然と健康」を具体化
清里いきものガイド＝生物多様性への理解を促す

新規開発した自主事業:

羊毛で干支のウサギ作り

②自主企画事業の実施(1回)

伴野重由・水彩画展「てくてく～」を開催し、関連プログラムとしてネイチャー絵画教室を行いました。

③自然資料収集のための調査

植物の開花情報をまとめ、館内で上映するスライドプログラムを作りました。

④教材開発

清里の野鳥を紹介する「イマドリ」を1冊発行しました。

⑤地域の拠点施設

他施設の視察、関連する研修会への参加を通して、地域密着型の施設となるためのノウハウを収集しました。

⑥周辺の文化施設(博物館・美術館)、地域にあるネットワークとの連携(継続事業)

他施設との相互情報発信、「八ヶ岳ミュージアム協議会」「ミュージアム甲斐ネットワーク」などの集まりに参加しました。

⑦自然ふれあい施設としてのハードの整備・施設維持管理(継続事業)

自然歩道の安全確認および必要な修繕を行いました。また、山梨県にセンター修繕必要箇所の確認をお願いしました。

⑧鳥類標識調査の実施

準備をしましたが、天候や日程の都合で調査実施できませんでした。

(3)開館状況と入館者数の実績

・開館時間

1月～2月、12月 9:00～16:00

3月～6月、10月～11月 9:00～17:00

7月～9月 9:00～18:00

・休館日 毎週火曜日(ゴールデンウィーク及び夏休み期間中は無休)(表4参照)

表4:2010・2009年度八ヶ岳自然ふれあいセンター開館日数・入館者数等の実績

	2010年度	2009年度	増減/昨年比
年間開館日	322日	322日	増減なし
入館者数	102,632名	95,039人	7,593名増/107.9%
開館(1994.11)以来の 総入館者数	1,408,831名	1,306,199人	
1日平均入館者数	318人	295人	23名増/107.7%
利用団体数	326団体	289団体	31団体増/110.5%
団体利用者数	17,417名	15,466人	1,951名増/112.6%

4. 環境研究所＝環境教育研究

環境研究所は、次の2つの柱から構成されます。

(1)やまねミュージアム

上記に記しました。

(2)環境教育研究

①研究の実施と指導

スタッフに環境教育研究に取り組むことを奨励し、各々の成果を共有するために研究発表会を冬季に行いました。

②広報・営業との連携

環境教育研究の成果をキープ協会への集客に活かすため広報営業との連携を図りました。

5. 国際会議開催

(1)田んぼ国際環境教育会議の成果を COP10 で発表

日本環境教育学会との連携し、3ヶ年に渡って開催した上記会議の成果を COP10 の交流フェアで発表しました。

(2)アニマルパスウェイの成果を COP10 で発表

1998 年から取り組んでいるアニマルパスウェイの成果を COP10 の交流フェアで発表し、関連シンポジウムを開催しました。

(3)キープ協会の環境教育の成果を COP10 で発表

田んぼ国際環境教育会議ブースの中で、キープ協会の環境教育実践を紹介しました。

6. 地域との環境教育事業＝八ヶ岳田んぼの学校、清里子ども自然クラブ

地域社会との連携を深めるために以下の活動に取り組みました。

(1)八ヶ岳田んぼの学校

環境創造型農業の確立、地域の稲作文化を調査、日本型環境教育の開発、田んぼの環境保全を柱に活動し、地元の子ども達を対象にした「カエルっこクラブ」を実施しました。

(表2参照)

(2)清里子ども自然クラブ

月1回を目安に、地域の子どもとその保護者対象に自然体験の機会を提供しました。(表2参照)

(3)学校教育

山梨県の小中学校からのプログラム依頼に対応しました。

(4)その他

山梨県および北杜市の環境教育講座等の講師を務めました。また、山梨県・北杜市の環境教育関連の各種委員やネットワークの構成員を務め、地域内の環境教育ネットワークを強化しました。

IV. 財団本部

キープ協会の管理部門としての強化・建て直しを目指し、本来の基本業務の原点に戻って、トップマネジメントと現場とをつなぎ、全社的コミュニケーションの管理を担い、他部門のサービススタッフとなり、全社的活動の推進に努力しました。

また、国際事業部では多彩な交流事業や助成事業を実施しました。

1. 総務部

- (1) 財団運営事業計画の執行にあたっての周知徹底・進行管理
- (2) 理事会・評議員会に関する事項
- (3) 幹部会・事業部長会等に関する事項
- (4) 登記・法務等に関する事項
- (5) 関係官庁・諸団体等との折衝に関する事項
- (6) 社内規定集・契約書・重要文書・印鑑などの管理
- (7) 考案献策制度に関する事務局業務
- (8) 固定資産・リース物件・什器備品等の現物管理に関する事項
- (9) 防犯・防災・警備等に関する事項
- (10) 全社行事・イベントの立案・実施
- (11) 通達・通知・週報・メールなど協会内の情報伝達に関する業務
- (12) 稟議書の取扱・管理
- (13) 慶弔に関する業務（相親会・役員慶弔規定）
- (14) 寄附及び寄贈に関する業務
- (15) 職員の人事に関する事項（募集採用・労務管理・福利厚生・研修教育・労働保険・退職休職・人事文書・ハラスメント防止など）
- (16) 来客・接待などの業務
- (17) ボランティアの受け入れ業務
- (18) 企画事業計画書・企画事業報告書の取扱・管理
- (19) 清里聖ヨハネ保育園事務・監査対応業務
- (20) 理事長秘書業務・特命事項

2. 経理部

- (1) 年度予算編成・予算管理業務
- (2) 資金繰り計画・実施
- (3) 決算業務・税務
- (4) 月次決算処理
- (5) 日常取引の会計処理
- (6) 各部現金出納の統括管理
- (7) 買掛金の統括管理
- (8) 固定資産・リース物件・什器備品の帳簿管理
- (9) 債権・債務の管理
- (10) 経理規定の整備・実行

- (11) 情報開示すべき財務諸資料の作成とホームページ公開
- (12) 会計監査に関する事項
- (13) 清里聖ヨハネ保育園の経理に関する事項
- (14) 公益法人概況調査対応

3. 施設部

- (1) 環境美化・安全管理
- (2) 固定資産の維持管理・補修・改修に関する業務
- (3) その他の特命業務

4. KEEP総合計画

- (1) KEEP総合計画
今後の展開については、新しい中長期計画の立案と並行して、総合計画そのものを見直す必要がある

5. 国際交流事業部

- (1) 北杜市とケンタッキー州マディソン郡姉妹地域交流事業
地域貢献活動として北杜市国際交流委員会事務局に協力
北杜市代表団によるマディソン郡親善訪問に随行 5月26日～6月2日
(団長秋山議長ほか12名)事前学習会指導5回
マディソン郡代表団(ダグ・ホイットロック団長)20名訪問受け入れ 10月12日～19日
日米文化交流事業 北杜市内小学校、中学校でアメリカンインディアンの文化指導
北杜市国際交流委員会と打ち合わせ、スケジュール作成、各種手配、代表団に随行
- (2) ケンタッキー州マディソン郡中学生と教師のホームステイ事業
7月27日～8月5日 北杜市からの中学生 14名+2名教師がマディソン郡を訪問
事前学習会 ケンタッキー説明、ホームステイ交流、日本文化等 指導4回
- (3) 三井物産環境基金 助成事業 助成総額 1,276 万円
フィリピン・ルソン島北部山岳地域における持続可能な自然エネルギー普及と環境保全のための農村開発モデル事業
カリガ州パシル町バレンシアガオ村 小規模水力発電、バイオガス完成、環境教育研修会実施、3年間の事業終了
- (4) 地球環境基金助成事業 助成総額 1,030 万円
フィリピン北部山岳地域における青少年育成のための環境教育推進事業 今年度 330 万円
ルソン島北部山岳地域6州を対象にした環境保全のための環境教育事業 3年間の事業終了
12月にコーディリエラ地方(アパヤオ州とカリガ州)の2ヶ所でエコサミット開催、エコキヤラバン環境セミナー、高校生による創作環境演劇の公演、保全環境ハンドブックの制

作と配布、3月KEEPスタッフによるフィリピン国内2ヶ所で環境教育プログラム指導

(5) フィリピン聖公会北フィリピン教区 EDNP

2008年度までACKからの補助金を送金していたが、今年度はツルガオ・プロジェクト資金なし

EDNPにポール・ラッシュの会、キープ日本後援会からの奨学金支給は継続した。

(2009年度ACK、ソロプチミスト山梨、ポール・ラッシュの会奨学金、JCKからの345万円送金)

2011年2月、ACKサウルス会長、ドノバン副会長に同行して、EDNP、ツルガオ周辺地域を訪問し、同地域でのEDNPのミッション活動の現況を調査しました。

(6) 国土緑化推進機構 緑の募金助成事業

2011年7月まで マウンテン・プロビンス州バリッグ植林事業実施 助成額 110万円

6. その他のプロジェクト

(1) ISO事務局（内部監査体制）および、環境マネジメントプログラム

(2) 危機管理計画および消防防災計画・大規模地震防災計画（自衛防災チーム）

(3) 情報システム開発および構築

(4) 事務処理システムの企画・開発

(5) 経理システムの構築

(6) キープ協会職員食堂を本部組織化に置き、キープスタッフ全体の福利厚生に寄与

V. 清里聖ヨハネ保育園

キリスト教に基づき「一人ひとりを祝福する保育」を使命とし、神様の愛とやさしさ、思いやりの心・自然体験・国際感覚を柱として、特に幼児の主体性を大切にし、豊かな感性を育むことを心がけ、その環境づくりに努力しました。

1 異年齢児保育の継続

縦割り保育を積極的に取り入れ、異年齢児がお互いにより刺激をうけともに喜び互いに受け入れあう心を育んでいます。

2 自然学校・森のようちえんプロジェクトとの連携

自然体験・森の日を通して清里の自然を通して五感を育む。日常の保育の中で自然に子どもたちが親しみ、豊かな感性と自然を大切にする心を育んでいます。

3 環境教育・国際理解プログラム

平和を大切にする心を育むため、日本の伝統や文化を大切にする心を育むため「ワールドプログラム」を行いました。日常の保育の中でも保育士が世界の出来事等を子どもたちに理解できるよう伝えていきます。

4 安全・安心な給食の提供

バランスの取れた手作りの食事・おやつを提供したり、季節の野菜・行事食などを取り入れている今日のメニューをディスプレイにならば保護者に見ていただいています。

5 保育士の資質の向上

研修に積極的に参加し、自分たちの保育の振り返りをしています。

6 施設改善の見直し計画

(1) 園児の安全・衛生面から、当面の修繕の必要箇所を改善しました。

(2) 現在の施設の耐用年数から見て、さらに将来の中長期ヨハネ保育計画に基づき、厚生労働省・山梨県・北杜市の資金協力(公的助成)のもと、2013 年度(平成 25 年度)完成を目標に、園舎を建て替えるためのプロジェクトチームを編成し、必要な調査・研究・視察などをスタートしました。

園児数

	やまね	りす	のぞみ	計	よろこび (5歳)	めぐみ (4歳)	あい (3歳)	のぞみ2 (2歳)	のぞみ1 (1歳)	計
男児	17	17	4	38	10	15	10	1	3	39
女児	8	10	9	27	6	4	7	7	2	26
計	25	26	12	65	16	19	17	8	5	65
家庭数	22	25	10	57						

市町村別(南牧村 2、北杜市 63)

VI. 清里聖アンデレ教会

島田征吾司祭は、2010年度は、清里聖アンデレ教会牧師・キープ協会チャプレンのほか、長坂聖マリヤ教会の管理牧師をはじめ、日本聖公会横浜教区の委員等を兼任されました。

1. 宣教についての学びと取り組み

(1) 横浜教区宣教委員会による「体感学習会」 6月12日 長坂聖マリヤ教会

2. 山梨県下三教会合同プログラム

(1) 県下三教会合同礼拝 7月19日 甲府聖オーガスチン教会

(2) 県下日曜学校キャンプ 8月20日～21日 清里聖アンデレ教会

3. 保育園職員・保護者聖書勉強会

清里聖ヨハネ保育園職員・保護者の聖書勉強会を行いました。

保護者聖書勉強会には卒園児の保護者なども参加して、日頃の子育てなどについても自由に懇談いたしました。

4. キリスト教関係学校・団体等の受け入れ

例年のように、多くの学校団体等の受け入れを行いました。

横浜英和小学校、聖心女学院初等科、関東学院六浦小学校、横浜学院

葛飾学園、青山学院初等科、子どもの園、多摩ファミリーシンガーズ

立教学院オールラッシャーズ、横浜教区礼拝音楽研修会など

5. キープチャプレンとして

(1) キープ創立記念日・62周年感謝礼拝 11月25日

(2) ポール・ラッシュ逝去記念礼拝 12月12日

(3) キープ協会新入職員オリエンテーションのお祈り 4月22日・23日

(3) 事業所ごとの朝礼(お祈り)、会議陪席など